

東北次世代がんプロ養成プラン 共催セミナー実施報告書

(本報告書は東北次世代がんプロ養成プラン HP へ掲載させていただきます)

(セミナー名称) 2022 年度第 5 回山形県がん化学療法セミナー
1. 担当分野
薬学研究科
2. 実施年月日
令和 5 年 2 月 4 日
3. 開催場所・開催方法
Zoom による Web 形式
4. 関連分野・領域
がん化学療法
5. 対象者
薬剤師
6. 参加者について
参加者合計人数 : 61 名 以下の内訳について教えてください 学内参加者数 : 学外参加者数 : 53 名 東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学での参加大学数 : 1 東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学 <u>以外</u> の参加大学数 : 0 なお、他の内訳もございましたら、以下にご記載ください (医師、薬剤師、看護師、など)
7. 成果
2023 年 2 月 4 日 (土) に 2022 年度第 5 回山形県がん化学療法セミナーを「緩和領域」をテーマに Web 形式で開催した。 特別講演 I では、山形大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長の志田敏宏先生から「終末期、薬剤師はどこまで根拠を持って関わられるか」と題し、緩和ケアチームの薬剤師として、自身が「振り返りが必要」と感じた 2 症例について、問題点の抽出、問題点に関する介入内容とそのエビデンス、経過、振り返りについてご講演頂いた。「ケミカルコーピングが疑われる症例への介入」、「難治性疼痛に対する介入」で、コーピングや依存に関する情報、痛みやオピオイドの特徴、様々なエビデンスをもとにした介入を情報提供していただくとともに、主治医やチームメンバーと協力した患者への関わりについてご講演いただいた。 特別講演 II では、山形大学医学部附属病院 疼痛緩和内科 科長・講師の飯澤和恵先生

から「慢性疼痛とがん疼痛 ペインクリニシャンが行う疼痛治療」と題し、ご講演頂きました。全国的にペインクリニシャンはまだまだ少なく、特に山形では2名しか診療できる医師がいないことなどを情報提供いただいた。また、慢性疼痛とがん性疼痛の違いについて説明していただき、自身が経験した数多くの症例をまとめて紹介いただいた。慢性疼痛に対しては、適応を持つオピオイドがあるが、「痛み」だからすぐオピオイドを使わず、その器質の特徴や痛みの性状などから判断すべきことを学んだ。

両講師の先生ともにこれまで経験した症例についてわかりやすくご講演いただき、とても有意義な研修会となった。